

●中聖牛設置のための竹蛇籠製作講習会 二日間で40人参加 蛇籠11基完成する

8月25日に竹割り機の試運転を着工日にして今年の中聖牛の設置作業が始まり、修正に改良を加えて9月15日に250本の竹割作業を実施、午前中は5名の参加でフル回転、午後に学生諸君が加わって8人体制になって予定した250本を割り終えました。ここから蛇籠の底辺部分の製作に移りました。用意したのは7mの真竹でした。作業現場近くにある「淡竹」で蛇籠が編めないものかと数回実験を繰り返しました。しかし結局節間隔が短く粘りもなく曲げ部分では折れやすく蛇籠には適さないことが判明し、前回と同様真竹の使用になりました。蛇籠製作で得た昨年の教訓は竹幅が最適の4.5cmに整えることでした。今回はそのために高橋式竹割り機を製作し、幅の調整機も取り付けました。この機械の稼働が進みわずか1日で250本を割り切ることが出来て、高齢化の中で最大の重労働からの解放が出来ました。見事に完了してしまいました。6本の支柱を組み合わせ、底辺部分の六つ目編みに取り掛かりました。蛇籠づくりでこの底辺部分を作り上げるのに2時間でできればすごいものです。初体験者だと半日はかかるものですが、約7日の取組みで27本が組み合わせられました。そのうちの3人が15分くらいで完成させる程、腕を上げられました。

●京都大学 竹門康人先生 二日間びっしり製作に汗流す 底辺部分の組み合わせが完成できているので胴巻き作業の第2段階に移ります。6本を寝かしているのを、それを立ち上げ、胴巻きも付け加え、支柱も1本加え、胴巻き竹を編みこみます。ここが第2番目の難所で、初めての体験者はここで行詰ってしまいます。右回りだとか左回りだとか差し込みの傾きなどモデルを見ると簡単なのですが、抑え込み式(三すくみ)で緩まないようになるのですが、その機能が緩んで太く大きくなってしまいます。ここを乗り越えれば同じ作業の繰り返しですから、徐々に手順を呑み込むことになります。数回の経験でクリアできます。3年目の今年は数人の皆さんが思い出しながら上手に腕をあげられました。特に竹門先生は意欲にあふれて、二日間とも必死に取り組まれました。その熱心さにみんなが引っ張られて頑張りました。技術習得のけん引役を果たしていただきました。

●里山の会 深田、播川、福井、伊藤、森島さんが一生懸命 山下、大釜さんも熱心な取り組みでした。里山の会では、参加者の内最高齢者の前理事長の深田さんが持ち前の体力にものを言わせて、やる気を発揮されて熱心に頑張ってくださいました。節割り作業や整理整頓用具や準備物の用意など事前準備に心を配っていただき、作業のスムーズな進捗に尽力をいただきました。播川さんや森島さんは、針金による緊縛固定化の製作や改良に工夫を凝らしていただき、改良が進みました。これまでは相当時間必要でしたが、苦勞をしなくても良くなりました。福井さんはベテランとして技術の習得と指導に力を注ぎ、まず急所のマスターと日夜悩んでいただきました。それにつられるように伊藤さんも本格的な編み方のマスターに強い意欲をもって、熱心に努力と工夫をされました。素材を買い求めプラモデルを作りあげるなど努力していただきました。大釜さんは、全くの素人で、まさに見様見まねで、蛇籠を編み上げるまでに到達されました。山下さんは何ごとにも深い興味と好奇心をお持ちで熱心に分解分析を繰り返し、かなりマスターされました。こうした皆さんの集団によって、昨年以上に素晴らしい蛇籠になりました。

●名古屋から山内さん 広島から上村さんが朝から晩まで 作業予定日の前日に、前泊するところに困っているとの電話がありました。京都近辺で探しましたが、見つかりませんでした。特に土曜日なので無理でした。しかし、奈良市内で予約が取れたとのことでした。名古屋からの参加ですので、午前9時には到着したいとのこと、そして財団勤務なので、大へん深く興味を持っておられました。6日と7日の2連泊でご参加いただきました、ユンボの運転免許をお持ちとか、自分でもログハウスを組み立てるとかの技術者でした。二日間とも午前9時に現場に到着、準備作業も手伝っていただき、記録写真も熱心に撮影いただきました。

●原小組さん社長を含め5人が終日頑張ってください 昨年に引き続き技術指導にお越しいただきました。里山の会のメンバーはそれぞれ、懸命に取り組みましたが、第2の難所一本加える場所の急所がわかりません。ここがどうしてもクリアできずに思うように取り組むことが出来なかったのです。特に原社長さんの適切なアドバイスによって、かなり整理できたのではないかと思います。帰り際には「驚くように腕前が上が

りましたね」とお褒めのお言葉をいただきました。

●**11 基が完成する** 未完成の 20 本分 残る 12 本を製作となり、目途が立ってきた 初日の製作では順調に仕上がるのだろうかと心配しました。二日目になると、それぞれのチームワークがうまく回り始め、各持ち場での手順理解が進み、人のつながりが回り始め、スピード感が見られるようになりました。二日目の終了間際には、なんと 11 基となりました。全体で 27 基を予定しているので、残り 16 基分です。仕上がり具合は、昨年とは桁違いに美しくコンパクトに大きさも均一化されて見事に揃っています。

●**初日も二日目も 1 年後の中聖牛を案内**しました。台風 24 号が来る前日 9 月 30 日に完成したすばらしい通路が翌日の 10 月 1 日には約 100m に亘って、跡形もなく流されていました。設置した中聖牛には流れてきた流木がまとわりついて、悲惨な姿になっています。足元の砂は掘れて流され、水溜りになり、その分傾き、激流に抵抗したすごさが伝わってきました。

●**蛇籠製作のポイント**は、やはり支柱追加と胴巻き竹の取り付け場所の確定が難しい。蛇籠編みの最大のポイントは、底部の最初の組み合わせと、そして追加支柱と胴巻き部分の開始場所の設置、説明絵図をしっかりと理解して取り扱うことが最も必要な事に気づかされました。

●**六つ目編みの六角形の編み方が昨年比較で大へん上達**、11 基のスタイルが整ってきた、製作技術がすごく上達。今年の編み方は最初の底辺部分の大きさを極力小さくすることに努めました。ここが大きいと立ち上がりの支柱の間隔が広くなり、六つ目が大きくなり蛇籠が太くなってしまいます。なんでも最初、始まりを小さくして始めることが最初のコツになります。そして、竹の幅も影響があると考えましたが、それよりも交差部分をしっかりかみ合うところまで抑え込んでおくことこの参画の余白を無くするところまでかみ合わせることがコツと思います。これを浮かすとさらに大きな六つ目になっていきます。このポイントを最後まで継続すると直径 20 c m に近い六つ目編みが仕上がってくるようです。社長の原さんにこの部分を大きくほめていただきました。

●**昨年の教訓が生かされ**、幅 4.5 c m に割れている均一化が進み、凡そ大きな差がないのが整った作品に、仕上がっていったのではないと思います。しかし、それと同時に編み手の皆さんが極力丁寧に編んでみようと随分と心をもめていた大ことだと思います。

●**森林経営管理法**(2018 年 5 月 25 日成立。来年 4 月 1 日に施行)の学習会に参加しました、地主の意向によっては自治体が伐採を強行も…。いろいろ理解に苦しむ内容があり、14 項目の付帯決議をつけたものである。この法律の学習会を 10 月 24 日(水)午後 2 時 30 分から京都府有害鳥獣問題研究会の鈴木さんからお話をいただきます。多方面に大きな影響が考えられます。多くの皆さんのご参加をお願いします。16 時には終了と予定しています 場所は里山の会事務所です。

●**延期された「竹蛇籠付近の生き物調べ」13 日(土)10 時から実施** 京都大学生や院生がお手伝いに参加してくれます。指導は竹門康弘准教授にお願いしています。河川レンジャーアドバイザーがお手伝いをします。福井波恵さんや風邪が治れば中西康太君など投網も使います。今年の「親子で遊ぼう学ぼう魚捕り」に参加してくれた高学年の小学生達に案内メールを送りました。

●**農園部会 A が里山農園教育棟で部会を開催**します。10 月 12 日(金)午 13 時から 2 時間 里山農園での白土山へのコースガイド杭設置と 11 月 17 日の大集会への取組み相談会を行います。

●**10 月 27 日(土) 10:00 京都大学防災研究所「京の川の恵みを活かすフォーラム」ご参加を** 里山の会から活動紹介発表(中聖牛の取組みと河川協力団体活動)ご参加をお願いします。桂川や宇治川、多くの川で生き物と親しんでいる団体の活動紹介が準備されています。アユの遡上や魚道の取組み団体との交流を深め合いましょう。参加費無料 中書島駅から徒歩 15 分淀川左岸 駐車場あり。また、11 月 4 日(日)11 時から、川の恵みを活かす食味会が予定されています。京都大学防災研究所 宇治川オープンラボラトリーで、昨年は 100 人が集いました。各河川のアユの食べ比べが楽しみです。

●**植物班では 10 月 15 日(集合は市役所多目的駐車場 9 時 30 分)に木津川の植物調査を開催** 今年最終の観察会になります。こぞってお越しください。